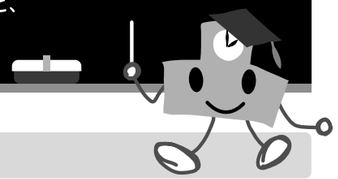
小学校の事例 手稲区 富丘小学校

食育に、手元にある材料を活用。委員会とともにコンポスト堆肥づくり。

食の循環を学ぶため、堆肥づくりから
栽培、収穫、試食までを体験。
身近な材料で自作したコンポストを利用するなど、
環境に配慮したトータルな取組に。



内容 オリジナルコンポストから実践スタート

本校では以前から、学校の前庭花壇にオリジナルのコンポストを設置し、教員2名の管理のもと、落ち葉と米ぬか、醗酵促進剤を使って堆肥を作っていた。これをさらに発展させた取組にしたいと考え、平成21年度からフードリサイクル事業実践校として活動している。現在では米ぬかやリサイクルたい肥をもらい、それを活用して各学年の教材園での栽培活動に取組んでいる。本校は給食調理校であり、堆肥の材料として、みそ汁のだしに使用されている昆布なども活用している。

全学年が各教科の中で学年ごとに栽培活動を行い、生育・収穫に伴う水やり、雑草とりなどの体験をとおして、学ぶ生命の大切さや収穫の喜びを実感できるようにしている。

また、収穫した食材を調理して実際に食べることをとおして、食の循環（食物連鎖）について学んでいる。家庭科の時間や学校給食に試食ができると、栽培活動への励みにもなり、作る喜びにもつながり、これが食べ物を大切にする心を育んでいる。

オリジナルのコンポスト

発展 グリーンアーススマイル委員会の環境活動

本校では毎年、子供たちが「富丘小学校をよくするための委員会」を決めている。平成22年は「グリーンアーススマイル委員会」を作り、「自分たちが今できることを考える」というテーマに基づいて活動した。活動内容は、野菜を栽培をして生物・命について学んだり、リサイクル活動（ペットボトルのキャップを回収してワクチンや文房具を贈る活動）をしたりと多岐にわたっている。

種こんにゃくいも

以前、堆肥づくりは教師だけで行っていたが、現在はこの「グリーンアーススマイル委員会」が教師の指導を受けながら行っている。メンバーは熱心に作業にあたっており、堆肥をむらなくかき混ぜ、しっかりと発酵させることができるようになった。

さらに、委員会ではリサイクルたい肥を利用した土で、こんにゃくいもを栽培した。こんにゃくいもは道内ではあまり見られないが、平成21年、子供たちの教材として給食食材業者より提供があった。栽培は平成22年の春からだったが、それに先立ち、こんにゃく粉を購入してこんにゃくづくりを行った。

教材園に設置されたコンポスト

今後 あるものを活用して取組む

本校では、苗を買うより安いので種から栽培することが多い。コンポストも、倉庫にあったベニヤ板を何枚か組み合わせ、ロープでくくって自作した。板の下部分を少し土に埋めることで、風が吹いても飛ばないどっしりとしたコンポストとなっている。

自然を相手に進める作業なので、たとえば「○日の給食にトウモロコシをいれたいね」と計画しても、天候や生育状態が合わないなど、うまくいかないことが多い。これも学習の一環として、生産者の気持ちを理解する一つの教材となっている。

今後も、給食の食材として使える作物を、実際に子供たちの手で栽培する取組を続けていきたい。さらに、給食にそのような食材を使っていることを、子供たちから校内や家庭に向けて発信していくような取組を行っていきたいと考えている。

秋まき大根

これから取組む学校でも、お金をかけずに今あるものを利用し、視点を変えながらやってみるとよいと思います。また他の学校と、情報交換すると発展させやすいかもしれません。フードリサイクル実践交流会では他校の取組を知ることができてよいと思います。作物を栽培しっぱなしにならないよう、年間を見通した計画を立てることや各学年と十分連携をしていくことが大切です。

本校では栽培したゴーヤをうすい輪切りにし、塩を振ってトースターで焼き「ゴーヤチップス」として試食したこともあります。他のメニューではゴーヤを食べられないと言っていた子供たちも「おいし～い!」と大満足のようすでした。このようにレシピを工夫し、食べ物との楽しい経験を増やすことも、子供たちにとって大切であると考えています。